



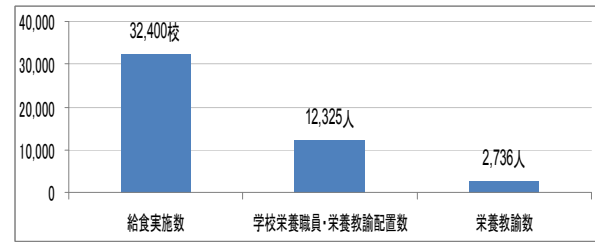
「苦手なピーマンも食べられたよ！ レシピください！」の聲にこたえたい。

「ピーマンは苦手だけど、きょうの肉詰めフライだとおいしいから残さず食べられたよ。おうちでも作ってもらおうからレシピちょうだい！」教室をまわると嬉しい子どもたちの声に包まれます。

「先生が教室を見に来てくれるとSちゃん急に元気が出て食べられるからきょうも声をかけてあげてね！」先生!明日も学校農園のなすをとりに行こうね!」毎日同じ学校にすることができ、ずっと子どもたちに寄り添いながら仕事ができるからこそ、子どもたちとの信頼関係を作ることができます。

栄養教諭ってまだ10校に一人なんです

多くの小・中学校・特別支援学校・定時制高校で給食は実施されているのに、どの学校にも学校栄養職員・栄養教諭が配置されているわけではありません。給食センターで作っている場合は、何校も受け持っている学校にはなかなか行けない場合もあります。全国の学校数 32,400 校中学校栄養職員・栄養教諭が配置されているのは 12,325 校で、3校に一人です。さらに栄養教諭が配置されているのは 3853 名（2011年）で10校に一人にすぎません。（グラフの数字は2009年5月現在のものです。）



中学校栄養職員・栄養教諭が配置されているのは 12,325 校で、3校に一人です。さらに栄養教諭が配置されているのは 3853 名（2011年）で10校に一人にすぎません。（グラフの数字は2009年5月現在のものです。）



10年間改善されていない配置基準

右の表が配置基準ですが、2001年から全く改善されず、学校栄養職員と栄養教諭を合わせても全国平均で3校に1名程度の配置にしかありません。また、定数改善計画も2013年まで凍結となっているため、新たな配置ができない現状です。

現在の学校栄養職員（栄養教諭）の配置基準	
▼単独校	学校給食実施対象児童・生徒数 550人以上の学校・・・(1人) 549人以下の学校・・・(4校に1人)
▼共同調理場	学校給食実施対象児童・生徒数 1,500人以下・・・(1人) 1,500人～6,000人まで・・・(2人) 6,001人以上・・・(3人)
▼特別支援学校（義務制）	・・・1校1名の配置
▼夜間中学・定時制高校	・・・配置基準がない 栄養職員・教諭の配置基準の表



なぜ栄養職員と栄養教諭がいるの？

2004年に新たに作られた「栄養教諭」は栄養士の免許だけでなく教育職員としての単位も必要なので、制度導入に際しては多くの県で認定講習が開催されました。

また「栄養教諭」の免許を取得した後、希望者全員が「栄養教諭」に任用替えになった県がある一方で、少ない採用枠で採用試験を課せられ「栄養教諭」の配置割合が10%にも満たない県もあり、都道府県での格差は広がっています。「栄養職員」の人と「栄養教諭」の人がいるのはそういうわけです。文科省も『栄養教諭の配置促進について』の文書を出すなど努力していますが、採用試験の受験資格条件が狭められていたり、採用枠が少なかったりして、希望者全員が「栄養教諭」としてまだ採用されていないのです。

また、認定講習を県で行わなかったところや、県で認定講習を実施していた時には産休などで受講できなかったという人もいます。すでに認定講習が終わっている県が多いため、専門科目や教育実習の単位だけがとれず、現職の栄養職員で仕事をしながらでは栄養教諭の免許をとれないという実態もあり「栄養教諭」になれない人もいます。

子どもたちの成長・発達を保障する 豊かな学校給食の実現をめざして

学校栄養職員・栄養教諭は、安全性に配慮し、日本の食文化を大切にしながら、子どもたちの成長・発達を保障する豊かな学校給食が実施できるよう努力を重ねてきました。「安全で豊かな学校給食を実現してほしい。」



「きめ細やかな食の指導を充実してほしい。」「食物アレルギー等、個人の課題に対応した給食を実施してほしい。」という願いは、保護者の方や教職員の中で大きく広がっています。ところがこうした願いを、兼務の拡大や臨時職員の配置で解消しようとする地域が増えています。しかし、それをずっと続けていることは問題です。学校給食や食教育を充実させるためには、一校一名の正規の学校栄養職員・栄養教諭の配置が急務です。



すべての学校に栄養教諭が 一校一名配置されると・・・

- ・安全な国産の食材を使用し、日本の食文化を継承できる豊かな学校給食が実施できます。
 - ・生産者と連携した地産地消や産直等のとりくみがすすめられます。
 - ・子どもたちに寄り添いながら、教職員・保護者の方たちと連携し、教科学習と連動した食教育を継続的に実施できます。
 - ・食物アレルギー等個人の課題に対応し、きめ細かく配慮した給食実施をすることができます。
- 「卵抜きでとんかつを作ってもらえたのでみんなと同じものを食べられて嬉しかった。」少量の卵を食べただけで、湿疹がでてしまう児童からのメッセージです。同じ学校にいて子ども達の様子を把握してこそ、きめ細やかな対応が出来ます。



ところが、現実には・・・

学校栄養職員・栄養教諭の配置は、グラフで見てもわかるように一校一名にはほど遠い状況にあり、未配置の学校がたくさんあります。その結果、給食センターはもちろん単独校であっても一人で複数校を事実上の兼務として強いられるところも多いのです。その結果、計画段階で十分に関わらず、継続した取り組みや指導が出来ない状況になっています。

特別支援学校は小・中・高3校分の献立を考える上に、特別食などの手配や寄宿舎の献立までやるところもあります。先生方の人数も多いので連携も難しく、一人ではすべてのところに手がまわりません。

さらに、配置基準さえない定時制高校では、調理員の仕事も併せてしているところ（枠内配置の場合）もあり、栄養職員としての力を十分発揮できていないです。

給食センター勤務の栄養教諭の声

小中あわせて8校受け持っています。小学校と中学校が同じ献立なので、中学生に合わせた献立をたててあげられません。授業で呼ばれたらなるべく行きたいけれど、急に複数の学校から同じ日に声をかけられても準備ができず行けません。子どもたちの実態をよくわからず先生たちとの打ち合わせも十分とれず授業をすることになることも多いです。

兼務している学校栄養職員の声

どの学校にも同じようにしてほしいと3校受け持っていますが、どの学校も中途半端になり責任ある仕事できません。子どもたちと毎日会えないばかりか、職員会議にも出られず学校の様子もつかめないで、色々な取り組みをすすめるのが大変です。毎日同じ学校にいて継続的に子どもたちの食べる様子を見たいです。

配置基準改善に向けて、署名にご協力をお願いします!